

よしきい

2021年 5・6月



目次

- 公園の風景
 - いとあわれなるシジミチョウの話・1
 - トビ様ご入居、かな!?!?.....1
 - 潮風に揺れるハマダイコンの花・・・1
 - 自然公園にようこそ・・・・・・1
- きらら浜 蜂蜜物語 ④・・・・・・ 2
- みんなのひろば
 - カエルの合唱・・・・・・・・・ 2
- 活動紹介
 - 春まつりはどしゃ降りの雨の中・・・3
 - ミニ講座でブラッシュアップ!・・・3
 - 公園で一句♪・・・・・・・・・3

おいし〜い！ノニガナの花の蜜を吸うベニシジミ

発行：「葦の会」機関紙チーム
事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53
きらら浜自然観察公園内
電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)
mail asinokai.kirara@gmail.com

「葦の会」は きらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？

会員募集中！（高校生以上）

公園の風景

= いとあわれなるシジミチョウの話 =

公園は春爛漫。飛び交うチョウをよく見かけるようになりました。その中でも小さく目立たないシジミチョウの仲間が注目を浴びました。名前の由来は羽の形がシジミ貝に似ているから。実はチョウの中で最も種類が多く、高山から街中の花壇まで様々なところで見られる身近なチョウです。羽を閉じると地味で、どれも似たような模様をしていますが、羽を開くと派手な模様や金属光沢が現れます。そのギャップ感と美しさはハマグリを使った日本古来の遊び「貝合わせ」さながら(シジミだけに!)。小さく儂い(はかない)ものを愛でる日本人の美意識をくすぐられます。

= トビ様ご入居、かな!?! =



「恵まれた餌場と素晴らしい景観付き!」と鳴り物入りで(?) つくられた鉄塔が、観察ホール前に広がる干潟のそばに設置されています。高さ 10 メートルのミサゴの営巣のための人工巣台です。ミサゴ様になかなか気に入ってもらえないまま 4 年が過ぎ、みな半ばあきらめていたところ、2 月下旬、鉄塔の上に木の枝など巣材を運び込むトビをレンジャーが発見。

「ただ今子育て真っ最中」……と書きたかったのですが、残念ながらトビも途中で営巣をあきらめてしまったそうです。人工巣台はトビ様のお役にも立てなかったようで、今まで通りぽつねんと立っています。

= 潮風に揺れるハマダイコンの花 =

淡水池やヨシ原を巡る園路の外れにある海に面した防波堤と干潟の間は、低木と草類で形成された緑地帯になっています。わずかな風の冷たさを感じる 4 月中旬、そこに薄紫色をした四弁花のハマダイコンが群生しているのを見つけました。アブラナ科ダイコン属の越年草ですが、園芸種ではない自生する植物のたくましさと美しさを再認識しました。来春も咲き誇ってくれることと楽しみにしています。



= 自然公園によろこそ =

「きらら浜プール脇の交差点」と「きららサッカー場の県道 212 号面」に設置された公園の看板がリニューアルされました。過去に公園の活動の中で使用してきたポスターの数々。その中から



公園スタッフと葦の会会員により選ばれた 2 作品です。交通の妨げにならないように車を停めてじっくりご覧ください。「楽しそうー!」「迫力あるー!」「行ってみよう!」ときっと思って頂けるはず。

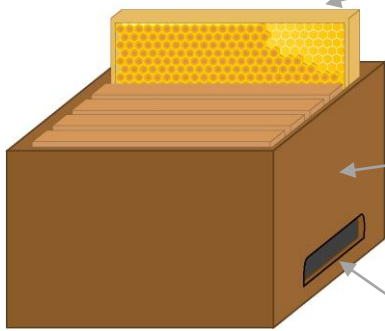
きらら浜 蜂蜜物語 ④

花々が咲き競う春を迎えミツバチの活動は一層活発となります。働き蜂は花の海を泳ぐように蜜や花粉を集めます。巣箱の周りを半径2～3km 飛び回り、集めた蜜は体内のミツ胃といわれる袋に貯めたり、花粉を団子状に丸めて後ろ足についた花粉かごに納めたりして巣に持ち帰ります。こうして1日に10 数回も巣箱と花を往復します。



pinx.jp - 68629588

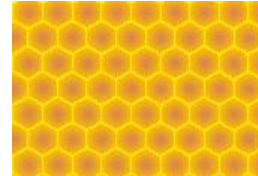
<巣箱の様子>



巣板
取り出してハチや蜜の状態を確認する

巣箱
巣板が10枚まで
取り付けられる

出入り口



巣房

- ・強度抜群なハニカム構造
- ・卵が産みつけられ幼虫が育つ場であり蜜や花粉の貯蔵庫でもある

養蜂家による巣板の定期的な点検管理はハチの数と採蜜量には欠かせぬ作業です。4月は蜂蜜の初しぼりが行われる時期で、公園の春まつりでは子供たちが養蜂家のNさん親子の立ち合いで蜂蜜しぼりの体験をしました。間もなくハチの群れが大きくなる時期を迎えます。

つづく

みんなのひろば😊

カエルの合唱



皆さん、カエルはなぜ鳴くのでしょうか？

多くのカエルはオスしか鳴きませんがどうしてオスだけ鳴くのでしょうか？

実は、カエルも野鳥のオスと同じく、鳴き声でメスを引き寄せたり、縄張りを主張したりしているのです。童謡「カエルの合唱」は歌いだしのタイミングをずらす輪唱で、皆さんも一度は歌われたことがあると思いますが、この輪唱のような法則がカエルにもあり、効率よく合唱しているのだそうです。その秘密は・・・一匹のオスが鳴きはじめると、そのオスにメスを独り占めされないように別のオスも鳴きはじめます。しかし、鳴き声が重なってしまうとメスにうまくアピールできないため、タイミングをずらして輪唱のように鳴くのだそうですが、競い合うように鳴くのでは疲れてしまいます。みんなで合唱する時と休む時を定期的に繰り返し、「近くのカエルが鳴いた時だけ鳴く」という簡単なルールを組み合わせてによって規則的な鳴き声が生まれるという、カエルの意外な能力に驚きです。

そんなカエルたちは環境の変化に弱く、年々数が減っている事が懸念されています。カエルが棲みやすい環境を大切にしていきたいものです。

(Junko・W)



活動紹介

= 春まつりはどしゃ降りの雨の中 =



4月29日(木祝)小雨が降る中、恒例の春まつりが開催されました。そのうちに土砂降りになりましたが、親子連れが次々と来園。館内でゲームやクイズ、工作、蜂蜜しぼりなどを楽しみました。ようやく雨が上がったのは終了時間の2時間ほど前。園路には大きな水たまりがあちこちにできましたが、長靴をはいた子供たちは何のその。「淡水池一周すごろく」では巨大サイコロを転がしミッションをこなして元気に帰ってきました。サツマイモがゴロゴロ入った会員手作りの蒸しパンは、蒸しあがる片端から売れていきました。大変な天候でしたが来園者も葦の会のメンバーも大いに楽しんだ一日になりました。



= ミニ講座でフラッシュアップ! =

毎月第一日曜日の全体活動日に、昨年度より公園レンジャーや葦の会の仲間の中から専門知識や特技を持つ方に20分程のレクチャーをお願いしています。

・4月の講演者：渡部潤子さん(会員/元公園レンジャー)鳥類の消化器官とオシッコについて

・5月の講演者：野村匠さん(会員)/公園の樹木の話

を吸収して少しずつ進歩しているはず……??

<俳句教室優秀作>



新年度となり、新たに3名の方が入会され、ますます張りきる葦の会です。

= 公園で一句♪ =

昨年より始まった月一回の俳句教室が5名の新受講生を迎え2年目に入りました。講師は厳しくも楽しい講評が人気の兼久ちわき先生。いつもならみんなで公園を歩いて句作するのですが今月は雨だったので室内で俳句の基本の「き」を学びました。

編集後記

コロナの終息がなかなか見えてきませんが、皆様いかがお過ごしでしょうか。爽やかな季節、広々とした公園を歩いてリフレッシュしませんか?館内では6月8日まで野鳥写真展も開かれています。小学生が撮影した作品もあります。是非見に来てください。

会のメールアドレスができました。 asinokai.kirara@gmail.com です。投稿もお待ちしております。(nimu)

吹く風に姿隠して鳴く雲雀
昇

3月